



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第三〇一号〜

夏至<sup>げし</sup> 六月二十二日

## 赤崎さん

毎年六月二十二日に行われる鳥羽の赤崎祭りは、あかさきまつ「赤崎さん」と呼び親しまれています。

外宮の末社である赤崎神社の夏祭り、今年是一年でもっとも昼間の時間が長い夏至の日にあたります。

赤崎神社は、赤崎（鳥羽五丁目）と藤之郷の産土神うぶすながみとされ、赤崎祭りもこの二地区の町内会によって準備されます。

二十二日は、午前中に伊勢神宮から神職が出向き、月次祭つきなみさいが行われます。そのあと午後二時から中道路路が通行止めになり、露店が並び始めます。ピクになるのは夜。「ゆかた祭り」の別名もあるため、浴衣姿の人々などで七時前後には、赤崎神社の神域は大賑わいになります。

お目当では、「杉葉すきは」と呼ばれる杉の小枝です。なんでも昔、地元に流行り病が発生した際、神域の杉の小枝を門戸に吊るした家々が難を逃れたという言い伝えから、例祭日に杉の小枝を授かり、流行病・厄除け祈願のため、門戸に吊るす風習が今に続いているのです。

この風習は、二見町に伝わる蘇民将来そみんしょうらいの注連縄しめなわの門符かどふの異なる形と考えられてもいます。二見は蘇民将来の注連縄で、赤崎は杉葉を吊るすのです。一年間吊るした杉葉はこの日に戻されるのが習わしです。

加茂川が鳥羽湾へ注ぐ河口にある赤崎神社は、今は道路沿いですが、かつては船をつけて海から参ったよう、海に向かって立つ鳥居が江戸時代の絵図に描かれています。

海辺の神社の風習が、今も大事に伝わっています。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 七夕の節句

各地でさまざまなお祭りや行事がおこなわれる「七夕」。七夕の行事は二千年以上も昔に中国で生まれ、日本には、奈良時代に伝わったとされています。

おかげ横丁では、昔ながらの笹飾りを飾り、町全体で「七夕の節句」をお祝いします。

と き／6月29日(土)～7月7日(日) 10:00～17:30

ところ／おかげ横丁一帯

## ● 手作り教室

吹き流しや編み飾りなど昔ながらの七夕飾り作りや夏にピッタリなうちわや風鈴に絵付けしていただけます。

と き／6月29日(土)～7月7日(日)  
10:00～17:30(受付16:30まで)

ところ／おかげ横丁内「特設会場」

料 金／七夕飾り作り200円、てるてる坊主作り200円、  
うちわの絵付け500円、風鈴の絵付け1,200円

## ● 笹舟で遊ぼう

笹の葉で小さな舟をつくって遊びませんか。大人には懐かしく、子どもたちには新しい自然の遊びです。

と き／7月6日(土)、7月7日(日) 10:00～17:30

ところ／森翁館横「特設会場」

料 金／無料

※天候等により中止または会場に変更が生じる場合があります。

五十鈴塾

## ○ 即位礼と大嘗祭

このたび天皇陛下がご即位になり令和の時代となりました。御代替わりに際しての儀式も、古式にのっとりながら時代と共に変化をし、今日も厳かにおこなわれます。従来のように先帝の崩御での即位ではないので、国民もどういふ儀式がどんなふうにおこなわれるのか、お祝いする気持ちを持ちながら興味が一杯です。皇学館大学佐川記念神道博物館は、昔の即位礼、大嘗祭の様子を描いた非常に価値のある資料などを多数所蔵しています。5月31日から開催する特別展「即位礼と大嘗祭」は、伊勢にゆかりの者としてはぜひとも見るべき展示です。博物館の学芸員さんに説明をしていただきながら、しっかりと見学しましょう。神宮徴古館・神宮美術館も鑑賞します。時間があれば、倭姫宮にもお参りしましょう。(皇学館大学佐川記念神道博物館入館料は無料)

と き／7月3日(水) 9:30～12:00

参加費／一般2,500円 会員2,000円  
(神宮徴古館・美術館入館料・保険料含む)

集 合／9:25に神道博物館前集合

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

あじさい  
紫陽花

羊羹のきんとんで色とりどりに仕立てた、あじさいの七変化。梅雨もまた楽しからずや、この時季の風情です。

こくとうかん  
黒糖羹

黒糖の羊羹と錦玉を重ね、琥珀のような色合いに仕上げました。こくのある甘みで、ひとときの夏時間をお過ごしくださいませ。

さと ほたる  
里の螢

金柑の入った葛寒天で白餡とこし餡を包み、金色の螢火が描き出す情景を表現しました。